

令和5年度の教育活動等に対する学校評価書

令和6年2月13日

学校法人大雄学園青島こども園長
学校法人大雄学園学校関係者評価委員長

伊藤 正見
牧野 好洋

- 1 園の教育目標 『心豊かな人間の育成』
- 2 本年度の重点目標 「がんばる子 やさしい子」
- 3 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

評価対象	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価点	園としての成果や課題、改善策	評価点	意見
教育成果	親や子どもは園での教育活動に満足している①	A	○多忙感を感じながらも子供の幸せを願うこと、ねらいをもって子供とともに活動すること、研修を通し先輩、同僚への尊敬の念を抱くことで、保育者一人一人がやりがいを大いに感じることができ、更に保育者一人一人の教育保育力を高めることができた。 ○保育者が一人一人の園児の発達段階に応じ、生活習慣を身につけさせたり、遊びを大切にしたりした保育教育活動を行った。 ○幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を意識し、毎日の地道な保育教育活動の事実を積み重ね、小学校につなげていきたい。	A	○日頃から一人一人の子供の良さを大切に、また引き出そうという考えのもと、それを体現している。 ・例えば音楽表現の場面でも、集中し担任の指揮を前のめりで凝視し、表現している。 ・年長児は年少児の時と比べ、やさしさが育っており、更に聴く力も育ち小学校教育へとつながられる。 ○休日などで家で早くクラスメートに会いたいと口に出すほど友達のかかわりを深めた。
	職員は親や子どもに信頼されている②				
教育課程	教育目標に沿った教育③	A	○教職員が教育目標や重点目標を共通理解し、更にねらいを意識し、子どもを真ん中にした毎日の保育教育活動や行事を行った。 ○コロナ対応に注意し、保護者の声に耳を傾けながら柔軟な教育課程の実施に努め、重点目標の具現化につなげた。 ○活動を慌ただしくさせず、発達段階を押さえたゆったりとした教育課程を作ることで、心に余裕をもち、子供の良さより多く見つけ、認め育てていきたい。	A	○『存在感』『意欲』『ゆとり』といった小学校で大切にしているものを園でも大事にされていて小学校、中学校へとつながられる。 ○普段の保育教育や行事についても職員が心を込めて取り組んでいることがわかる。 ○青島地区の子供の良さである『素直さ』『落ち着き』『真面目さ』を引き続き育てると共に、課題である『主体性』『夢を持つこと』『がむしゃらさ』についても意識して育てていただきたい。
	一人一人を大切にし、発達年齢に応じた保育⑤				
	園行事⑩				
教育環境	保育室、園庭、遊具等、園での教育環境④	A	○月1回の防災訓練では、園庭への避難だけでなく、宗乗寺への避難も体験させた。また簡易トイレを設置し子供の意識も高めた。消火訓練も毎回行うことが出来た。 ○職員の手による安全対策マップを作成し、廊下に掲示することで子供達の安全に対する意識向上に繋がった。 ○月1回の安全点検を丁寧に行い、危険箇所については素早い修理対応に心がけた。職員だけでなく子供の声も大切に拾っていきたい。	B	○毎月の安全点検などきちんと実施していて、子供達にも安全への意識が育っていることはありがたいと思う。 ○地域でも交通安全面では横断歩道の設置について、行政に要望を出している。引き続き交通安全への意識の高揚をお願いしたい。 ○園での防災訓練を今後も大事にしてほしい。また地域の防災訓練にも参加するなど、こういう機会を大事にしてほしい。 ○園内の環境について実際に見てみたいし、他の園の様子も知りたい。
	安全な環境について配慮⑧				
保護者対応	親や子どもに信頼されている②	B	○教育部では月末にシールノートへのコメントを書き保護者に伝えていたが、今年度からはその日の子供の良さを伝えることで、家族みんなが幸せを感じられるよう努めた。また子育て相談日も設定し、保護者と情報を共有している。 ○園だよりや学級だより、ホームページでの写真掲載などを通して、子どもの様子を丁寧に知らせた。更によりよいホームページ公開に向け動き出した。 ○子どもの怪我や事故等への対応や保護者連絡には細心の注意を払うことを徹底させた。今後も、保護者への早い対応を心がけると共に子供に関わる情報について担任だけでなく級外職員も確実に把握するよう努めていきたい。	B	○ほとんどの保護者は園の保育教育方針、日々の実践に共感し理解を深めている。中には保護者参加型の行事の復活を望む声もある。親の思い出作りではなく、子供も保育者もゆとりをもって、子供の健全な成長を第一に考えることができる内容を模索しながらよりよい実践を積み重ねていけば良い。 ○保護者の声に耳を傾け、コミュニケーションをとりながら保護者への要望に対応していくと良い。
	子どもの様子を丁寧に伝えている⑥				
連携	家庭や地域と連携した教育活動を行っている⑦	B	○地域の方の力を借りながらお茶会、味噌づくり、太鼓指導、音楽指導などを通して保育教育活動を充実させることができた。 ○青島東小学校との職員の交流（本園職員の授業参観、小学校職員のドレミパーティー参観）も行き、子供のことについて理解を深められた。また3月初旬の園外保育で、青島東小学校の校庭で遊ぶ活動を行う。 ○保護者の方の絵本の読み聞かせ、夏祭りへの協力活動は一部の方に限られたが、子供達はふれあいを楽しむことができた。保育教育活動への保護者公開についてはコロナ禍以前に完全に戻っていないこともあり、今後広く保護者等への公開について前向きに考えていきたい。	A	○こども園と小学校の架け橋期という大事な時期。小学校からも複数の職員が行事等参観させていただき大変勉強になる。小学校では園の子供の様子を職員に丁寧に伝えていく。また保育士の保育教育への姿勢について、学ぶところも多く、小学校職員指導にも生かしていく。 ○小学校への公開授業にも園の職員が参加したことはお互いの理解に繋がることであり、今後もさらなる充実を図っていきたい。 ○地域の祭典にも園児が参加することで、地域を知ることにもなり子供の育成に大いに貢献できる。次年度以降も更に連携していく。
食育	給食や栽培など、食育が適切に行われている⑨	A	○野菜栽培やサツマイモ作り、ゼリー作りや魚の解体ショー等、体験的な食育活動を通して、園児の食に対する関心や理解が深まった。 ○子供達は職員室前の給食コーナーの給食クイズを毎日楽しみながら考え食への関心を高めている。 ○健康に配慮した給食メニューは、保護者の評判も良い。更に期待は高まっている。	A	○食育を始めた当時から安全には万全を期して取り組んできた。真摯に取り組んできた結果、園として食育について保護者や地域の信頼を高めてきた。 ○今後も地域の方々や連携し、家庭とも協力しながら子供の食についての意識を高めていきたい。 ○園としては、食育が子供の心身の健全な成長の一助となるよう、慢心することなく今まで以上に安全管理について細心の注意を払いながら取り組んでいきたい。

評価点 A 十分に成果があった B 成果があった C 少し成果があった D 成果がなかった